

石狩川水系雨竜川河川整備計画[変更]概要①

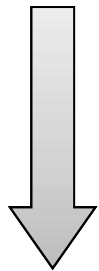
■ 石狩川水系雨竜川河川整備計画(平成19年5月策定、平成29年7月変更)について、令和4年8月に変更しました。

平成29年7月 整備計画変更

平成26年8月洪水を踏まえた目標流量の変更、及び既設ダムの有効活用等を位置づけ

【主な変更点】

- ・下流域においては昭和56年8月上旬降雨、中上流域においては平成26年8月降雨により発生する洪水流量を目標流量に設定
- ・既設ダムである雨竜第1ダム、第2ダムを有効活用し、洪水調節機能の確保に向けた調査・検討、必要な対策の実施



- ・平成30年 4月 雨竜川ダム再生事業(実施計画調査)に着手
- ・平成30年 7月 雨竜川(北海道管理区間)における浸水被害発生
- ・令和 2年 7月 社会資本整備審議会答申
～あらゆる関係者が流域全体で行う持続可能な「流域治水」への転換～
- ・令和 2年10月 2050年カーボンニュートラル宣言
- ・令和 2年11月 雨竜川(北海道管理区間)における浸水被害発生

今回の整備計画変更

雨竜川ダム再生の事業計画立案、施設能力を超過する洪水に対して防災・減災を図る取組、及び近年頻発する中小洪水に対して早期に効果を発揮させる取組等を位置づけ

【主な変更点】

- ・実施計画調査結果を踏まえた雨竜川のダム再生の事業計画を立案
- ・流域の関係者による流域治水の推進
- ・近年の洪水にも対応する北海道と連携した流域一体整備
- ・治水とあわせたカーボンニュートラルの取組の推進

石狩川水系雨竜川河川整備計画[変更]概要②

既設ダムの有効活用【P47】

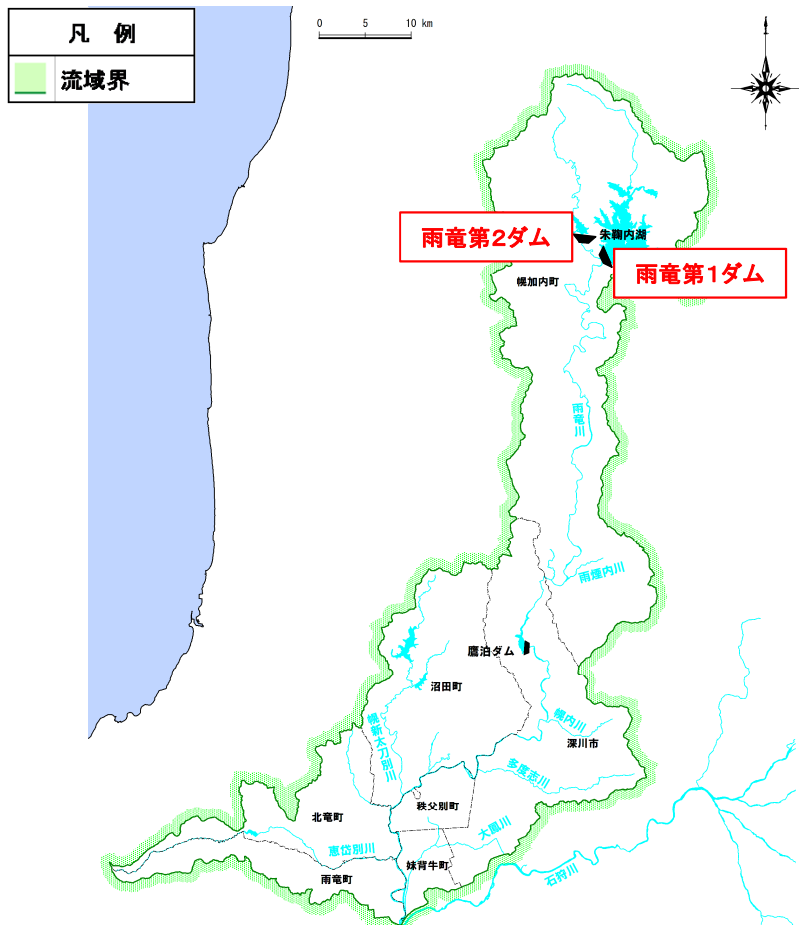
● 平成30年4月に着手した実施計画調査結果を踏まえた雨竜川のダム再生の事業計画を立案し、早期効果の発現を図ります。

雨竜川ダム再生事業後のダム諸元

施設名	ダム形式	ダムの規模 (堤高)	総貯水容量	洪水調節 容量	湛水面積
雨竜第1ダム 北海道雨竜郡幌加内町字朱鞠内	重力式 コンクリートダム	45.5m	244,700千m ³	18,700千m ³	23.7km ²
雨竜第2ダム 北海道雨竜郡幌加内町字朱鞠内	重力式 コンクリートダム	39.5m	24,100千m ³	6,300千m ³	1.9km ²

※雨竜第2ダムの堤高を35.7mから39.5mに嵩上げ。

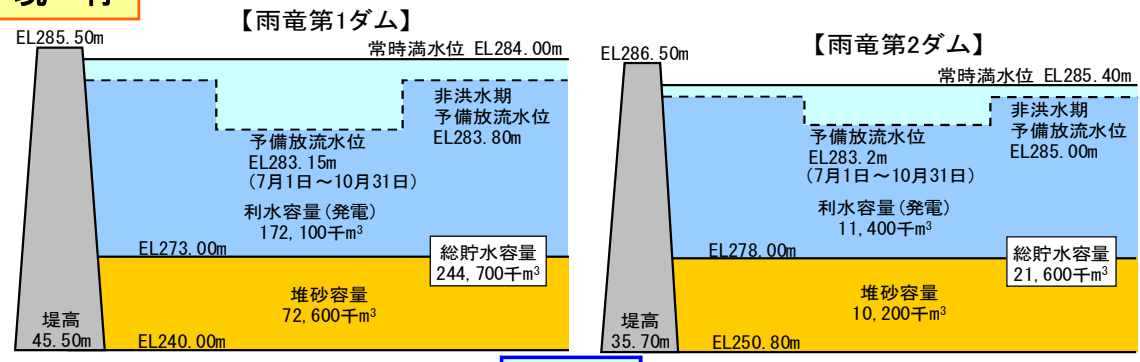
※数値は検討中のものであり、今後の設計等に伴い変更する可能性がある。



雨竜第1ダム・雨竜第2ダム位置図

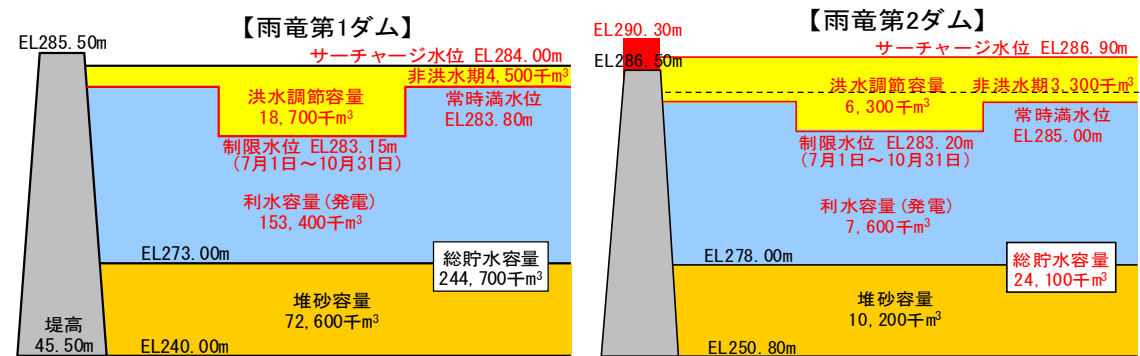


現行



ダム再生後イメージ

雨竜第1ダム・第2ダムの発電容量の一部を洪水調節容量に振り替えるとともに、雨竜第2ダムの嵩上げと合わせて約2,500万m³の洪水調節容量を確保する。



石狩川水系雨竜川河川整備計画[変更]概要③

流域における対策(流域治水の取組推進)[P17・18・51]

< 流域治水の基本的な考え方 >

- 流域治水とは、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防の整備、ダムの建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域(雨水が河川に流入する地域)から氾濫域(河川等の氾濫により浸水が想定される地域)にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。
- 治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進めます。

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水貯留機能の拡大 [国・市、企業、住民]
雨水貯留浸透施設の整備、ため池等の治水利用

流水の貯留 [国・県・市・利水者]
治水ダムの建設・再生、利水ダム等において貯留水を事前に放流し洪水調節に活用

土地利用と一体となった遊水機能の向上 [国・県・市]

持続可能な河道の流下能力の維持・向上 [国・県・市]
河床掘削、引堤、砂防堰堤、雨水排水施設等の整備

氾濫水を減らす [国・県]
「粘り強い堤防」を目指した堤防強化等

② 被害対象を減少させるための対策

リスクの低いエリアへ誘導／住まい方の工夫 [県・市、企業、住民]
土地利用規制、誘導、移転促進、不動産取引時の水害リスク情報提供、金融による誘導の検討

浸水範囲を減らす [国・県・市]
二線堤の整備、自然堤防の保全

③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土地のリスク情報の充実 [国・県]
水害リスク情報の空白地帯解消、多段型水害リスク情報を発信

避難体制を強化する [国・県・市]
長期予測の技術開発、リアルタイム浸水・決壊把握

経済被害の最小化 [企業、住民]
工場や建築物の浸水対策、BCPの策定

住まい方の工夫 [企業、住民]
不動産取引時の水害リスク情報提供、金融商品を通じた浸水対策の促進

被災自治体の支援体制充実 [国・企業]
官民連携によるTEC-FORCEの体制強化

氾濫水を早く排除する [国・県・市等]
排水門等の整備、排水強化



石狩川水系雨竜川河川整備計画[変更]概要④

流域における対策(流域治水の取組推進)【P17・18・37・51・52】

＜ 雨竜川流域における取組 ＞

- 流域のあらゆる関係者による流域治水の3つの柱の対策を推進します。

流域治水の3つの柱

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・水田貯留機能向上の促進、利水ダム等における事前放流の実施、体制の構築 等

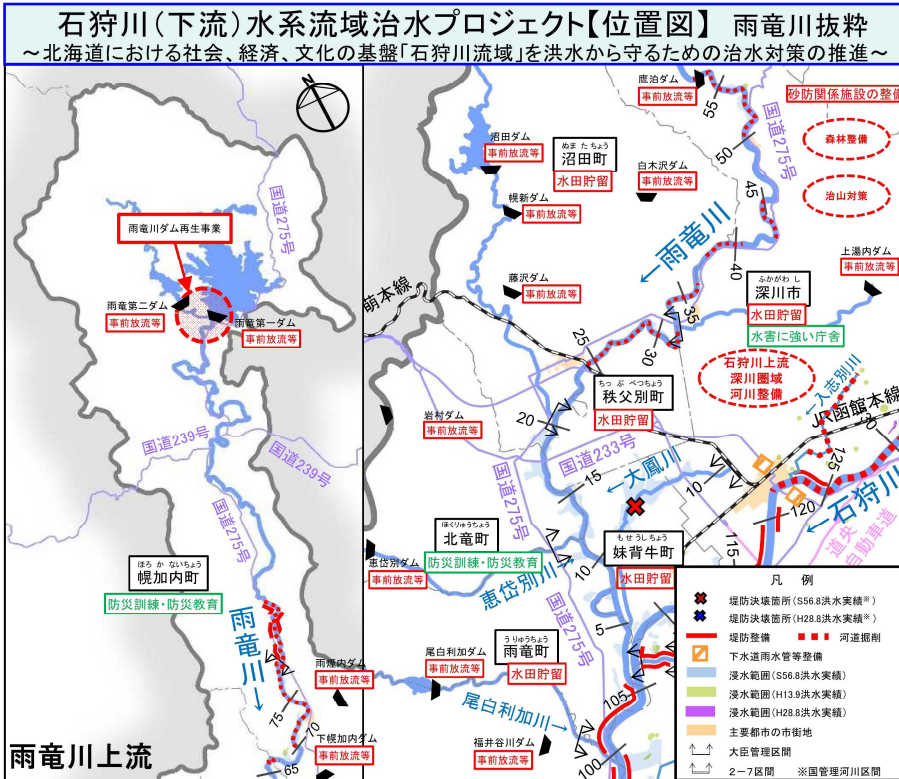
■ 被害対象を減少させるための対策

- ・水害リスクに応じた土地利用や住まい方の工夫、多段的な浸水リスク情報等の検討 等

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・応急的に避難できる場所や避難路の整備、的確な水防活動の推進、防災教育等に関わる知識の普及 等

- 「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」として雨竜川ダム再生事業及び河道の整備等を進めます。
- 河川延長の長い雨竜川流域の特性に適応させ、北海道管理区間と国管理区間において、流域治水の観点から、水系として一貫した河川整備の考え方にに基づき、雨竜川ダム再生事業による洪水調節と河道の整備を効果的に組み合わせ、整備計画目標及び近年頻発する中小洪水に対して早期に流域一体に効果を発揮するよう連携を図り整備を進めます。

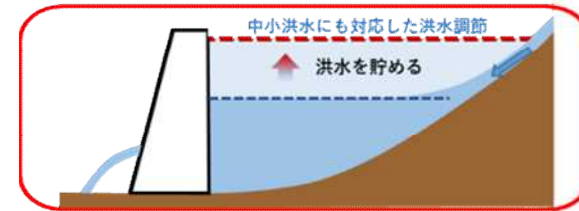
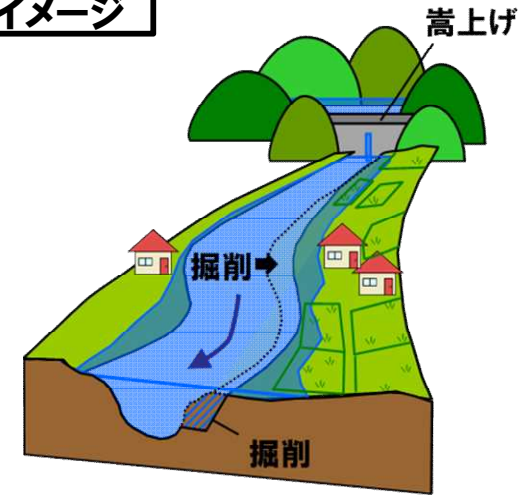


※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

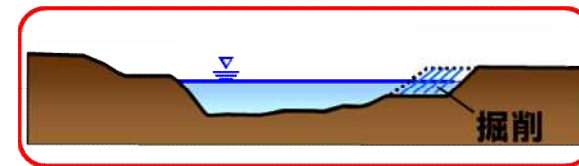
- 流域治水の取組として、雨竜川捷水路の旧川においては、自然環境が有する多様な機能を生かすグリーンインフラの考えを推進し、災害リスクの低減に寄与する機能の保全とともに、生態系ネットワークの形成を図ります。



整備イメージ



下流河川の流下能力の向上に合わせたダムの操作方法を検討し、近年の中小洪水(H28.8、H30.7、R2.11)にも対応



市街地近傍や流下能力不足箇所の整備

石狩川水系雨竜川河川整備計画[変更]概要⑤

カーボンニュートラルに向けた取組【P72】

- 2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラル」に取り組み、関係機関と連携して「ゼロカーボン北海道」の実現を目指します。
- 雨竜第2ダム of 河川維持用水を利用した発電や、雨竜第1ダム・第2ダムの洪水調節容量に貯まった水を発電に活用する弾力的管理の検討を進めます。
- 樹木の伐採は、公募伐採や自治体等と連携・協力することにより、バイオマス発電燃料等として有効活用を図る等、気候変動の緩和策にも資する方策の推進に努めます。

